

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市榴岡児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場
3 指定期間	令和2年4月1日から令和7年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 34,361人（前年度比 77.9%） 令和元年度 44,087人 平成30年度 43,839人 平成29年度 37,878人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 67,684千円 （60,388千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （0千円） （ ）は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 （0千円） ・ その他収入 0千円 （0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場）による自己評価》
<p>○4月からの学校臨時休校に伴い、榴岡小と児童館は最小限の児童クラブと子どもの居場所の確保に努めた。特に校長と館長が連名で全校保護者向けに両者の役割や自粛協力等の文書作成など細部にわたって共有し、教員と職員間も更に理解を深め児童対応が出来た。コロナ禍においても協働関係は不変である。○児童クラブ登録数は262名。本館と3分室による運営だがコロナ禍の中での3密回避には困難さが伴った。児童の心身のストレスと体力低下の衰えが懸念され、仙台市とのやり取りとコロナガイドラインに則り坪沼エリアでの自然体験ワークショップを4回、防災エンスショーを実施した。参加児童及び保護者から体験活動に対する共感を得られた。</p> <p>○6月から再開となった乳幼児親子の利用は当初から13組以上となったため、月齢に応じた定例会は分室2で行い、日々来館する親子の利用と分けて行った。「人に会いたかった」「話が出来た」との母親たちの声から、コロナ禍の中で不安を抱えていることが分かり、傾聴し寄り添う事を丁寧に行った。○乳幼児の親同様に児童クラブ保護者を対象にクラス毎の懇談会を実施し、児童クラブの様子を伝え保護者同士を繋ぐ場を作った。○榴岡エリアの子育て支援ネットワーク「緑が輪」は1回の開催に留まったが、アンケートを実施しコロナ禍での課題等を話し合えたことは大きい。○子どもスタッフ会が中心となって計画した「こどもまつり」はコロナ禍で10月の自由来館再開まで中断となってしまったが、スタッフ会メンバーの強い思いで12月に実施することとなった。3密回避等を考え定員制や回数を分ける等の対策に本人たちが真摯に取り組み、当日は69名の参加があった。子どもの参画力は衰えておらず、また当日参加した児童も心待ちにしていたこと、保護者の理解も窺えた。○地域との協働行事等は地域事情でできなかったが、日々児童館を物心両面で支えて頂いた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>児童健全育成事業では、坪沼での自然体験や館内での砂場ワークショップなど子ども達に豊かな遊びの機会を提供している「SOATOワークショップ」を感染症対策を行いながらの活動を実施し、自然とのかかわりを通して子どもも豊かな人間性を育てている。また、子どもが主体となって作り上げた「こどもまつり」では、子どもの自主性を尊重しながら事業を実施し、子どもの自己肯定感を高め、達成感につながっている。</p> <p>子育て家庭支援事業において、地域子育てネットワークである「緑が輪」で実施したアンケートでは、コロナ禍での各団体の状況と今後の子育て支援の課題について情報共有を図った。乳幼児親子の利用も多く、自由な遊び場として提供しているほか、年齢ごとの「ひろば」を定期的で開催し、季節の工作や親子の触れ合い遊び、絵本の読み聞かせ等を行っている。また、榴岡民児協と共催の「つつじがおかサロン」では、おもちゃ遊びの後に保健師の講話や幼児安全講習、防災の講話を取り入れるなど子育てに役立つ情報を発信し、子育て支援に努めている。</p> <p>こうした特色のある館の様々な事業を通じて、常に職員のスキルアップを意識して遊びの提供や子ども達の支援に取り組んでおり、評価できる。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課